

日本学術振興会バンコク研究連絡センター

活動報告(2010年1月～3月)



■ 論博メダル授与式、第1回同窓会総会、バンコク研究連絡センター20周年記念講演及びレセプション開催■

2月5日(金)、バンコク・デュシタニホテルにて、JSPS 論文博士号取得者へのメダル授与式、タイ国 JSPS 同窓会設立総会及び当センター20周年記念式典が開催された。

式典に先立ち、同ホテル内で、論博取得者とタイ国同窓会設立準備委員会メンバー及び NRCT との打合せを兼ねた昼食会が開催された。

13時より、デュシタニホテル内会議室「サラデー」にて、JSPS-NRCT RONPAKU Medal Award Ceremony が開催された。National Research Council of Thailand (NRCT)の Mrs.Kanchana Pankhoingam (Acting Secretary-General) と小野理事長から祝辞が述べられたのち、小野理事長から当日出席した4人の論博メダル被授与者ひとりずつにメダルが手渡された。その後、論博取得者からは、受賞の挨拶や研究内容の説明がなされた。

14時15分から、第1回タイ国 JSPS 同窓会設立総会が開催された。池島センター長の挨拶の後、タイ国同窓会準備委員会メンバーが司会で会が進行された。ARAT (タイ国論博同窓会) 会長であり、同窓会準備委員会会長であるカセサート大学 Bussaba 教授が議長として、3回開催された同窓会準備委員会の報告と同窓会規則案



について説明がなされ、同窓会名称、同窓会目的、同窓会会計規則などが話しあわれた。会則については原案を事前に JSPS 事業経験者に送付していたが、当日も会則の詳細について活発な議論が行われた。会則と準備委員会メンバーが初年度の幹部会メンバーとなること、Bussaba 教授を会長とすることが承認された。

17時から、同「サラデー」にて当センター20周年記念行事第一部として、記念講演が開催された。本会の学術顧問で国立公文書館アジア歴史資料センター長の石井米雄先生によるご講演を予定していたが、急遽欠席となったため、小野理事長が講演原稿を代読した。続いて、小野理事長が「大学の国際化～日本における高等教育政策の挑戦」と題したプレゼンテーションをおこなった。

18時30分から、「デュシタニホール」にて、当センター20周年と同窓会設立を記念したレセプションが開催された。池島センター長司会のもと、小野理事長の挨拶後、National Research Council of Thailand (NRCT)の Acting Secretary-General の Mrs.Kanchana Pankhoingam、在タイ日本大使館隈丸優次公使から祝辞が述べられた。また、先の同窓会総会にて選ばれた JSPS タイ国同窓会長のカセサート大学 Bussaba Yongsmith 教授から乾杯の挨拶の後、小野理事長より Bussaba 教授へ、記念品と JSPS 同窓会会員バッジが贈呈された。

池島センター長より、当センターの20年の歩みについてプレゼンテーションがおこなわれた。プレゼンテーション中、第3代センター長の赤木巧先生、第12代センター長の吉田敏臣先生からお祝いのメッセージが紹介された。

記念講演及びレセプションには、JSPS 事業経験者、タイ国内大学の JSPS 事業担当者、在タイ日本関係機関などから120名を超える出席者があった。今回の式典・レセプションは、バンコクセンター20周年という節目を終え、新たなセンター活動のはじまり、またタイ国 JSPS 同窓会の開始を



記念するものであり、関係各位の引き続きのご支援を賜りたい。



■ 香川大学インターナショナルオフィス インターナショナルウィーク参加 ■

香川大学インターナショナルオフィス（Kagawa University International Office、KUIO）からの依頼により、当センターでは香川大学インターナショナルオフィス・ウィークへ参加した。このオフィスウィークはインターナショナルオフィスの役割や、取り組み、香川大学の国際戦略について広く議論をする機会を設ける目的で2月9（火）～16日（火）にかけて、公開シンポジウム、フォーラム、ワークショップなどが行われ、池島センター長と角田副センター長が13日のプログラムから参加した。

13日の午後は、「コミュニティ・ベースの国際化」と題した公開シンポジウムが行われた。一井眞比古 香川大学学長による開会挨拶のあと、KUIO オフィス長の村山聡教授から「香川大学における国際戦略と海外交流拠点」と題して趣旨説明が行われた。この中で「海外交流拠点」が交流に関わる学内情報の収集発信の拠点（ハブ）としての機能を果たすもので、海外において大学等との機関や大学の活動の拠点になる「海外拠点」を意図したものではないという説明があった。ここでいう「海外交流拠点」とは、たとえば香川大学のある部局が、重点を置く交流機関を決め、それについて KUIO が審議をして、全学における「海外交流拠点」と位置づけ、その活動を支援するというものである。いわゆる「海外拠点」設置が、必ずしも交流促進に繋がっていない例が多くあることを考えると、「海外拠点」を起点として交流の促進を図るのでなく、学内に交流のハブとなるオフィスを設置し、積極的な交流を行う部局を全学の「拠点」として利用する支援をするという取り組みはユニークで、今後の発展が期待される。また、インターナショナルオフィスの活動を含め、香川大学は「地域に根ざした国際化」を国際戦略の基本方針としており、地方国立大学の特徴を活かした国際化の取り組みとしても、今後の展開が注目される。

今回のオフィスウィークでは、2009年4月に設置されたインターナショナルオフィスと学内の連携体制を整えるため、大学の国際交流の状況、国際戦略について学内や関係機関（香川県

など)と理解を共有することを目指して、学内および公開のシンポジウム、特別講演などがいくつか行われた。

JSPS バンコク研究連絡センターからは、「コミュニティー・ベースの国際化」と題した公開シンポジウムにおいて、池島センター長が JSPS の海外交流支援の事業や海外拠点としての当センターの活動を紹介し、また、タイにおける当センターの活動や、教育研究活動の経験からみた大学国際交流への意見をのべた。また、「大学の国際化と事務支援体制」と題した Staff Development ワークショップでは、角田副センター長が「事務職員の立場から」として、当センターの活動について講演を行った。

オフィスウィークでは香川大学における国際交流の在り方について議論するだけでなく、その基盤となる大学教育と地域との連携事例や、学術研究についてのフォーラムも開かれた。

「コミュニティー・ベースの医療教育モジュール」と題した、地域医療およびプライマリ・ヘルスケア取り組みについての講演(武田裕子、三重大学教授)や、「グローバル社会の地位研究を考える」と題したセッションではアジアの様々な地域を対象とする研究者が講演を行った。

インターナショナルオフィスは設置されてから1年を経たおらず、これまでの学内での議論を受けて、ようやく本格的に活動を展開しようという段階と見られ、オフィスウィークはこれからの活動を学内外に広報し、学内の国際化への意識を高めようという意図でおこなわれたようである。一連の行事は、インターナショナルオフィス専任の職員だけでなく、様々な部局からインターナショナルオフィスに関わる教職員が開催運営に携わっていた。学内セッションでは、各部局が積極的に取り組む国際活動をインターナショナルオフィスが支援する考え方が理解されていないと思われる意見もみられたが、様々な部局の資源を共有し、国際交流のハブとして国際化を推進するオフィスの今後の展開が期待される。



■ 第3回 JSPS タイ同窓会準備委員会開催 ■

1月13日(水)、バンコクサーミットタワー10階会議室にて、第3回日本学術振興会タイ同窓会準備委員会が開催され、準備委員会委員6人が出席した。

第2回 JSPS タイ同窓会準備委員会議事録が承認され、JSPS タイ同窓会規則のたたき台にいくつかの加筆修正が加えられ、第1回総会にて会員全員に諮る最終的な規則案が完成した。JSPS タイ同窓会準備委員会長として、タイ国 JSPS 論博同窓会長であったカセサート大学・

Bussaba 教授が選ばれた。JSPS タイ同窓会準備委員会委員が、1年間暫定的に同窓会設立後の幹事会（Board Member）のメンバーとして引き続き活動することが提案された。その他、2月5日の第1回同窓会総会の進行、JSPS Bridge Fellowship について議論がなされ、今後の活動として、NRCT リサーチエキスポや同窓会主催のセミナーやシンポジウムをおこなっていききたいという意見がでた。



■ 第2回 ANDA 国際会議出席 ■

1月8日（金）～10日（日）にカンボジア・プノンペンホテルにて、名古屋大学とカンボジア王立プノンペン大学との共催で、「グローバル化時代のアジアにおける新たなダイナミズムの胎動と産業人材育成に関わる国際セミナー・開発のためのアジア学術ネットワーク（The Academic Network for Development in Asia:ANDA）会議」が開催され、当センターから角田副センター長が出席し、閉会セッションにて挨拶をおこなった。



この事業は、本会の「アジア・アフリカ学術基盤形成事業」として名古屋大学大学院国際開発研究科が実施している事業であり、2009年1月には、バンコクで第1回ANDA国際セミナーが開催されている。

名古屋大学大学院国際開発研究科と王立プノンペン大学は、1998年に部局間学術交流協定を締結し、以来活発な学術交流を推進しており、今回、名古屋大学と王立プノンペン大学は、改めて大学間学術交流協定を締結することとなり、1月9日には、王立プノンペン大学において、学術交流協定書の調印式もおこなわれた。



また、本会の平成21年度若手研究者交流支援事業に、「開発のためのアジア学術ネットワークを通じた国際開発研究の推進と若手研究者能力強化」事業が採択され、本セミナーでは、この事業において、名古屋大学に招へいする若手研究者の選考方法について、ANDA参加11拠点大学のコーディネーターと協議がなされた。

■ 千葉大学・マヒドン大学国際交流センター相互設置の調印式・マヒドン大学におけるセンター・オフィスの開設式典 ■

3月10日（水）、マヒドン大学理学部において、千葉大学・マヒドン大学国際交流センター（Chiba University-Mahidol University International Exchange Center）設置の調印式が行われ、調印式典への招待および来賓あいさつの依頼を受け、池島センター長が出席しセンター設置への祝辞を述べた。この国際交流センターは両学の学術研究交流の促進、学生に対する教育機会の促進を目指して、マヒドン大学と千葉大学双方にオフィスを設置するもので、千葉大学が姉妹校との間で設置する初の海外拠点とのことである。両学の学長が出席し開設の挨拶を行い、今後の交流の一層の活性化に大きな期待が述べられた。これまで、マヒドン大学からは、千葉大学園芸学部、薬学部留学し、その後マヒドン大学の教員として活躍する卒業生が数名おり、研究・教育交流が進められてきた。園芸学分野では博士号のダブル・ディグリー・プログラムが開始されているが、今回のセンターの設置で、より組織的に広い分野で活発な交流が行われることが期待される。



センター設置の調印式典に合わせ、前日には千葉大学園芸学部の教員による特別講義および、両学の大学院学生による研究発表会が行われた。

■ ウボンラチャタニー大学 地方留学説明会参加 ■

1月29日（金）、在タイ日本大使館主催の留学説明会がウボンラチャタニー大学にて開催され、当センターから角田副センター長が参加し、JSPSの事業説明をおこなった。在タイ日本大使館主催の留学説明会は、留学生の獲得に向けた大学のPR、日本語教育の振興、日本観光の促進を目的として年数回各地で開催されている。



29日の午前中に、ウボンラチャタニーの Vichitrapittaya 校（中学・高校）を訪問し、同校の日本語教育の様子し、日本より同校に派遣されている日本語教師や学生たちと意見交換した。

午後のウボンラチャタニー大学留学説明会では、ウボンラチャタニー大学、当センターを含めバンコクに拠点をもつ東京農工大学、京都大学、日本学生支援機構が参加し、それぞれの機関や大学についての説明をおこなった。在タイ日本大使館隈丸公使の開会挨拶にはじまり、

VTR による日本紹介、参加機関及び大学の説明、日本留学経験者の体験談などがおこなわれた。

■ 第3回 International Inventor's Day Convention (IIDC) / National Inventor's Day 出席 ■

タイ国家学術研究会議 (NRCT) の主催により、2010 年 2 月 2 日 (火) ～5 日 (金) まで、Nonthaburi 県の Impact Arena において、The 2nd International Inventor's Day Convention (IIDC) が開催された。1994 年に「Inventor's Day」(毎年 2 月 2 日) が制定され 2001 年以降は NRCT が中心となり各種イベントを開催している。2 月 2 日は、オープニングセレモニーとあわせて、INVENTOR AWARD の授賞式が開催され、科学技術大臣より受賞者へ記念品などが贈呈された。

今年は、国際発明者協会 (International Federation of Inventors' Associations、IFIA) から海外の機関も加わり展示会を行っていた。中学校から大学までの学生による展示や民間企業からの参加も多く見られた。

■ 第4回ワークショップ「Improvement of solid waste management and reduction of GHG emission in Asia(SWGA)」出席 ■

日本の国立環境研究所とタイの Joint Graduate School of Energy and Environment (JGSEE)、キングモンクット大学トンプリー校の共催、および日本の環境省 Global Environment Research Fund の後援で、2 月 22 日 (月) プルマン・ホテル・バンコクで開催された。

この会議は廃棄物 (Solid Waste) の処理・管理に伴う温室効果ガスの排出を削減するため、アジアにおける廃棄物処理の現状を理解し、改善に必要な技術や管理方法を知る。また、温室効果ガス排出インベントリー(目録)を整備し、温室効果ガス排出削減への道筋をつけることを主な目的として開かれた。過去 3 回を日本で開催し、今回初めてタイで開催されたものである。

今回の会議では、第 2 回の会議で指摘された温室効果ガス排出インベントリー(目録)を整備の必要性を受けて、アジア各国の廃棄物処理セクターによる温室効果ガスの排出量の推定事例と、モデルやパラメーターの問題点が紹介された。また、各国の廃棄物処理の現状と、温室効果ガスの排出を抑える技術についての発表があり、その利点や問題点が議論された。この会議での議論を通して明らかになったことは、廃棄物処理・管理に関わる様々な要素：廃棄物種類



やその割合、分別の可・不可、処理にかけられるコストなどが国や地域により大きく異なり、ある地域で効果的な技術や管理方法や排出量の推定方法などを、直接的に他地域に適用することが難しいということである。

なお、タイ側の幹事として開催を取り仕切った Dr. Sirintornthep Towprayoon、JGSEE 准教授は JSPS 論文博士号取得希望者に対する支援事業を受け、九州大学で学位を取得し、タイ国の地球規模の気候変動対策に関わる分野で活躍している。IPCC(国連 気候変動政府間パネル)のノーベル賞受賞の際には、IPCC の「国家レベルの温室効果ガス目録のガイドライン」作成をはじめとした貢献に対し IPCC より感謝状が贈られている。

■ 大学評価・学位授与機構主催 2010 インフォメーション・パッケージ出席 ■

3月2日(火)、バンコク・サイアムシティホテルにて、独立行政法人 大学評価・学位授与機構、英国高等教育質保証機構(QAA)、中国教育部高等教育教学評価センター(HEEC)主催、アジア太平洋質保証ネットワーク(APQN)後援による「2010 インフォメーション・パッケージ」が開催された。質保証機関等における「相互理解」と、理解増進に資する「戦略的な情報提供」をテーマとして、各国・地域の事例や経験を共有するとともに、相互理解の増進を図る上で重要とされる情報提供の方針や質・内容・形式等について議論を深め、見解を共有することを目的としている。

ユネスコ Division of Higher Education、Innovation and Quality Assurance の Ms.Stamenka Uvalic-Trumbic が、「Internationalizing Quality Assurance: the importance of information sharing」と題した基調講演がおこなわれ、それに続く日本、英国、中国からの事例発表をもとに、全体討議がおこなわれた。

大学評価・学位授与機構の事例発表では、国外の質保証機関等との連携協力活動において、言語や国境の壁を越えて実効的な関係を構築するため、質保証制度やその背景となる高等教育制度などについて、インフォメーション・パッケージの作成・発信を通じた相互理解促進のための取り組みが紹介され、これまで機構で作成された日本、アメリカ、英国、オーストラリアの高等教育分野における質保証システムの概要が参加者へ配布された。ワークショップで得られた見解や指針は、各参加機関の行う相互理解の取組の強化に活用するとともに、参加機関にとどまらず世界各国・地域での相互理解に向けた取組の一助となるよう、広く発信することとするという。



■ 第7回科学技術連絡会出席（在タイ日本大使館） ■

3月19日（金）、在タイ日本国大使館4階大会議室にて、第7回科学技術連絡会が開催された。バンコクに拠点のある宇宙航空研究開発機構、国際協力機構、情報通信研究機構、東京工業大学バンコク拠点等からの代表者が出席した。当センターから池島センター長が出席し、当センターの活動報告と平成22年度の活動計画を紹介した。その後、在タイ日本大使館からタイ科学技術博覧会の開催の案内があった。

来年度は、6月、9月、12月、3月に開催される予定である。

■ 大阪大学バンコク教育研究センター主催「タイの高等教育に関するセミナー」出席 ■

1月20日（水）、バンコク・サイアムシティホテルにて、大阪大学バンコク教育研究センター主催の「タイの高等教育に関するセミナー」が開催され、大阪大学の教職員、在タイの関係機関及び留学関係機関の関係者等が参加した。大阪大学バンコク教育研究センター 関達治センター長の挨拶の後、在タイ日本大使館



の富田書記官から「タイの高校について：特徴のある20校」の説明がなされた。Ms. Pornsawan Wongkrai、Director、Development of Policy and Planning、The Office of Higher Education Commission から、「タイの大学における国際プログラム」について、Mr. Natapol Neawchampa、Head、Education Division、Faculty of Science、Mahidol University から、「マヒドン大学における大学入試」についてプレゼンテーションがおこなわれた。最後に、大阪大学の開設予定の国際プログラムについて議論がおこなわれた。

■ 京都大学東南アジア研究所主催 第4回京都大学東南アジアフォーラム出席 ■

2月6日（土）、バンコクのマンダリンホテルにて京都大学東南アジア研究所主催の第4回京都大学東南アジアフォーラムが行われた。2007年11月にジャカルタ、2008年、2009年1月にバンコクで行われたフォーラムに続き開催されたものである。フォーラムには、京都大学タイ人同窓会（Kyoto Union Club）との連携により、京都大学を卒業したタイ人、タイで活躍する日本人など京都大学卒業生、タイ国内



の研究者等が参加した。

今回は「Health Crisis!!! Business Chances Creation」をテーマに、マヒドン大学 Dr Wichai Ekataksin による「Health Crisis、Life Longevity、Aging Society in Thailand」、京都大学・松林公蔵教授の「Aging Population and Associated Problems in Japan」、キングモンクット大学・Prof. Dr Djitt Laowattana の「Innovative Products to Aid the Aged、the Disabled」の3つの講演がおこなわれた。最後に「New Business Opportunities: Caring for the Aged and Disabled、Devices and Apparatuses for the Aged and Disabled」と題した全体討議がおこなわれた。タイ国内では、健康に関する興味が年々高くなり、急激な高齢化に直面していることから、活発な質疑応答がおこなわれた。

■ 大阪市立大学・チュラロンコーン大学共催 第8回学術フォーラム「Empowering Urban Culture and Creativity」出席 ■

3月9日（火）～10日（水）、チュラロンコーン大学にて、大阪市立大学都市研究プラザとチュラロンコーン大学芸術学部共催の第8回学術フォーラム「Empowering Urban Culture and Creativity」が開催された。

「都市研究プラザ」は、2006年に大阪市立大学内に誕生した研究施設で、2007年に『文化創造と社会的包摂に向けた都市の再構築』というテーマでグローバルCOE拠点に選ばれている。チュラロンコーン大学芸術学部内に、大阪市立大学の海外サブセンターが設置されており、毎年、芸術学部と共同で都市に関する学術フォーラムを開催している。



チュラロンコーン大学 Pirom Kamolratanakul 学長の挨拶後、タイ国内閣総理大臣顧問であり、前バンコク都知事の Apirak Kosayodhin 氏が、「Bangkok Creative City」と題した基調講演をおこなった。日本、タイ、ヨーロッパの大学や関係機関らの研究者、大学院学生、都市政策関係者、芸術家がスピーカーとして招かれ、多方面からのアプローチで都市文化と都市の創造性について講演や活発な議論がおこなわれた。

■ 日本国際交流基金・チュラロンコーン大学共催公開講座「Japan and Thailand in the Changing East Asian Regional Order」出席 ■

2月19日（金）、日本国際交流基金とチュラロンコーン大学 Institute of Security and

International Studies (ISIS)との共催で、総合科学技術会議議員の白石隆先生による「Japan and Thailand in the Changing East Asian Regional Order」と題した公開講座が開催された。

2009年10月下旬にタイ・ホアヒンで開催された、ASEAN+3首脳会議、東アジア・サミット等の評価を基に、自民党から民主党への政権交代による日本の国内政治アジア諸国への外交政策の現状について焦点をあて講演をおこなった。白石先生の講演後、チュラロンコーン大学の政治学研究者やジャーナリスト等と、アジア諸国の政治とこれから益々強まるアジアの地域内の相互依存・相互関係について議論された。



■ 石井米雄先生追悼式 ■

3月5日（金）、チュラロンコーン大学歴史学部のDr. Charnvit Kasetsiri、Chalong Soontravanich 両先生により、2月12日に亡くなられた本会の学術顧問で国立公文書館アジア歴史資料センター長の石井米雄先生の追悼・供養の会が、石井先生が出家したバウウォンニウェートウィハーン寺にて開催された。



■ バンコク研究連絡センターを離れるにあたり

バンコク研究連絡センター長 池島 耕 ■

2007年7月から2年9ヵ月務めたバンコク研究連絡センターを3月に離れるに当たり、気付いたこと、思うことなどをセンター報告に書き留めさせていただくことにした。タイにいて、東南アジアの各国の研究者との交流から感じたことを、センター長という立場からだけではなく、一人の研究者の立場としても述べさせていただく。



タイや周辺の東南アジアと日本の学術交流は、現在盛んに行われているということは間違いない。交流の形態は、新しい知識や技術は主に日本から東南アジアへと流れていたものが、次第に東南アジアの研究者人材が育ち、各国で大学・大学院の充実が図られ、相互に対等な交流へと変化しつつある。とはいっても、まだまだ、日本が研究の先進性をリードしている分野が大半であろう。しかし、部分的に見れば、タイの中にもかなり先端的な研究をしている分野があり、それらの研究者は高いプライドを持っている。またタイの文化や政治の研究は、対象が自国ものであり、それに対する誇りもあるので、タイの研究者は、必ずしも外国の研究の優位性を感じにくいであろう。研究機関レベルで見ても、世界の「大学ランキング」にアジアの大学としてはトップクラスに入るところもでてきている。一方、大半のタイ大学の研究レベルは日本の大学の平均的レベルと比べればはるかに低いに違いない。このような交流で、かつての日本の「優位」な立場を無意識に抱いているとしたら危険である。

タイと日本の研究交流では、かつての人材育成支援的な研究交流からより対等な研究交流へと移りつつある分野や研究機関そして研究者と、依然として人材育成支援のための研究交流が必要な分野や研究機関そして研究者が混在している。したがって、「時代が変わった」とか「人材育成はもう何年もやってきた」ということで、すべての研究支援をより対等な研究に変えることはできない一方、より先端的となった研究には「より対等な立場」での研究推進ができるような支援が必要である。その意味では、JSPS の拠点校交流事業から、アジア研究教育拠点とアジア・アフリカ学術基盤形成事業への移り変わりは、このような状況に適切に対応しているものと思う：(私は、アジア研究教育拠点はより先端的、より対等な研究交流、アジア・アフリカ学術基盤はより人材育成、経費の支援的な交流事業になっていると理解している)。実際に、タイでは拠点事業についての謝意を良く耳にするし、後継の二事業への関心も高い。ただ、それに加えて、よく耳にしたのは、自分たちがもう少し自主的に計画や申請をできる助成がほしいという要望である。日本の研究資金を直接海外の研究機関に助成するのは難しい(不適當?)であるにしても、たとえば、国際的な研究助成を行う仕組みをつくり、そこから日本との共同研究を条件にした研究の申請を受けて、助成をする仕組みはあり得るのではないだろうか。実際、私がアジア工科大学に勤務していた際に、EUからはタイの研究機関に対し、EUの研究機関をカウンターパート、タイもしくは他のASAEANの研究機関をアジア側パートナーとして、共同で研究・教育プロジェクトを行うための研究助成について募集があった。研究計画は、EUのカウンターパートと練り上げるのだが、EUに対して、自ら応募書類を提出し、研究資金の一部はタイの大学・研究機関がEUから直接支援を受けることができた。このような形であると、個々の大学や研究機関だけでなく、EUの学術や途上国の開発を支援する体制や組織にまでタイの研究者の目が向けられる。日本でもこのような、国際共同研究の支援ができれば、タイや周辺国から、日本と共同研究したいという関心がより高まるのではないかと考える。ここ

まで、書いて思い出したのは JSPS の二国間交流である。実際、先のような質問を受けた時、紹介してきたのは各国の協力機関と共同で支援している二国間交流事業である。しかし、残念ながらその規模は小さい。ぜひ、このような支援をもっと大きな規模でもできる仕組みが作られたらと思う。

一方、研究交流の支援を受ける研究機関、とくにその主体とも言える大学の状況を考えてみる。タイの大学と学術・教育協定を持つ日本の大学は多く、最近では留学生獲得の狙いもあり、海外事務所をタイの協定大学内に開設する事例も増えている。幾つかの大学は、ダブル・ディグリー・プログラムなど、大学院教育での連携も始めている。交流はより活発に、そして密になっていることは疑いが無いが、アジア工科大に勤務していた時の経験も含めて考えると、日本の研究者、とくに大学の常勤教員は、一度の滞在期間が非常に短いことが気になる。どの国でも大学や機関による状況の違いはあるはずだが、欧米の大学からは、しばしば、サバティカルを利用した研究者だけでなく、少なくとも1月から数カ月間は滞在し、共同研究と同時に講義や大学院学生の指導など、教育にも携わるケースをよく目にした。日本の大学が過去にタイ大学の教育プログラムに大きな支援をした経緯を考えると、日本の大学も、かつてはもう少し長い海外出張と、在外での研究・教育活動が可能だったのではないだろうか。単に、論文発表としての研究成果だけでなく、教育まで含めた深い交流を進めるためには、日本の大学からも、継続的に、一度の期間が長い研究・教育滞在ができるよう支援する仕組みが必要だと考える。東南アジアで、日本の学術研究レベルは高いと思っている人は多い、しかし、同じイメージを抱いている先は日本だけではなく、英語も上達して、収入の良い仕事につくチャンスもありそのような国もある。大学の国際化への支援がいくつもなされているが、優秀な海外研究者・留学生を受け入れて、日本の大学の研究の活性化にも役立たせるためには、日本の研究者が実際に姿を見せて、日本の研究活動を伝えなければ、受け入れ態勢をいくら整えてもその目標は達成されないだろう。

以上、とりとめのない報告となってしまいましたが、何度も繰り返し感じたことを書き留めたつもりです。2010年4月からは日本で大学に勤務しますので、これから JSPS の事業には支援をいただく立場となります（競争的資金ですから、努力してお世話になる立場にならなければいけません）。上に述べたことについて、大学教員の立場からできることに努力したいと思いますが、研究助成機関としての JSPS 活動を考える際に、ほんの少しでもヒントになればと願っております。

最後になりましたが、この場をお借りして、バンコク研究連絡センター在職中に皆様から頂いたご指導、ご鞭撻に深く感謝申し上げます。

■ 大学の地域貢献に関するフォーラムサマリー ■

池島センター長在職中に2回にわたり開催された「大学の地域貢献」に関する国際フォーラムのサマリーを紹介する。

1st JSPS International Forum: Roles of Universities in Community/Regional Development

Session I: National programs for supporting community/regional development

- I-1. Dr. Masayuki Kondo, Professor, Graduate School of Environment and Information Sciences, Yokohama National University
- I-2. Mrs. Kanchana Pankhoingam, Deputy Secretary-General National Research Council of Thailand (NRCT)
- I-3. Dr. Somchai Chatratana, National Science and Technology Development Agency (NSTDA)
- I-4. Dr. Supachai Patumnakul, Specialist in University Business Incubator Program, Commission on Higher Education, Thailand

Session II: Introduction to University's experience/strategy

- II-1. Mr. Toshiaki Tsukamoto, Professor, Vice Director, Community Cooperation Center, Hiroshima University
- II-2. Dr. Satoshi Murayama, Professor, Adviser to the President, Kagawa University
Dr. Kazuya Akimitsu, Professor, Faculty of Agriculture, Kagawa University
Dr. Masaaki Tokuda, Professor, Faculty of Medicine, Kagawa University
- II-3. Dr. Hideo Kobayashi, Professor, Vice President, Mie University
- II-4. Dr. Tetsuo Matsumoto, Professor, International Cooperation Center for Agricultural Education (ICCAE), Nagoya University
- II-5. Dr. Amnat Yousukh, Vice President for Student Development Affairs, Chiang Mai University
- II-6. Dr. Numchai Thanupon, Vice President for International Affairs, Maejo University

- II-7. Dr. Kittichai Triratanasirichai, Vice President for Research and Technology Transfer Affairs, Khon Kaen University
- II-8. Ms. Yoko Yasubayashi, Incubation Manager, Center for Innovation and Intellectual Property (CIIP) , Tokyo University of Agriculture and Technology
- II-9. Dr. Hiroyuki Ono, Professor, Deputy Director, Cooperative Research Center, Yamagata University
- II-10. Dr. Jun Imai, Associate Professor, Center for Regional Collaboration in Research and Education, Iwate University
- II-11. Dr. Neung Teaumroong, Head, Research Department, Institute of Agricultural Technology, Suranaree University of Technology
- II-12. Dr. Pattara Aiyarak, Deputy Director of the Research and Development Office, Prince of Songkla University
- II-13. Dr. Mudtorlep Nisoa, Assistant Professor, Head of Molecular Technology Research Unit, Walailak University
- II-14. Dr. Peerasak Chaiprasart, Dean, Faculty of Agriculture, Natural Resources and Environment, Naresuan University

The JSPS International Forum: Roles of Universities in Community/Regional Development was held at Siam City Hotel, Bangkok on 23- 24 January 2009. Representatives of Japanese and Thai universities and agencies shared expertise and examples of good practices with regard to the community-outreach programs of their respective institutions of higher education and research.

The objective of the workshop was to review the role of universities in community/regional development in Japan and Thailand, and seek the future collaboration for playing their role in respective regions. Specifically, to 1) share the experience and knowledge on research & educational activities which focuses on local/regional contribution, 2) discuss what are special rolls of regional universities, and how those could be achieved, 3) discuss what policy, support and system are necessary for improving the situation, and 4) how international collaboration can support them for achieving their mission of regional contribution. The forum consisted of three sessions: 1) National programs for supporting community/regional development, 2) Introduction to university's experience/strategy, and 3) General discussion.

In the first session, 4 presentations were given to provide overview of regional redevelopment programs in which universities play important role. Prof. Kondo, Yokohama National University referred the national innovation system of Japan and regional innovation policies (i.e. Technopolis Policy and Knowledge Cluster Initiative, Industrial Cluster Program) and increasing trends and accumulation of experiences for university-industry collaboration in regions. He emphasized the importance of “Triple helix collaboration”: academia (university)-industry-government collaboration was emphasized for regional innovation. National Research Council of Thailand (NRCT) introduced their policy for supporting regions and communities through the promotion of research and dissemination of the findings. Several programs on research and dissemination by partnership with universities were presented, namely, programs on pest control, aquaculture, handicrafts, post harvest and renewable energy for supporting community/regional development. National Science and Technology Development Agency (NSTDA) provided overview of current status of technology transfer from university to industry, and pointed out several issues, such as lack of effective mechanisms. NSTDA also introduced their Industry Technology Assistant Program (iTAP), in which regional universities are engaged as nodes of the national network and provides consultancy and technology transfer service to SMEs in regions. In iTAP regional universities and institutions are set as nodes of the network. In the following presentation by Commission for Higher Education (CHE) it was pointed out that most researches in Thailand are created by Thai universities and number of publications has been increasing, but few of them transferred to industries. CHE initiates University Business Incubator program and assisted Technology Licensing Office.

In the second session representative of 14 universities presented their experiences on regional contribution. There were several common or similar programs between Japan and Thailand, for example, several universities have set up a community collaboration center for consultation, knowledge and technology transfer. Collaborative research center for joint research with regional industry, venture business incubation center for supporting university students and staff, and regional entrepreneur in starting up business using created knowledge from the university, are also such programs. Similarities in research topics for supporting community were also found between Japanese and Thai universities:

for example, post harvesting technology of agricultural products, development and distribution of functional chemicals/materials and traditional handicrafts.

In the third session differences in situation of regional development were also revealed. In Thailand regional development policies mostly come from the national government (i.e. top down policy), and local authorities do not have enough capacity to enforce it. In addition, the national policies are still more focusing on developing infrastructure rather than regional innovation. The regional universities in Thailand are virtually the only organization which can support the region with academic knowledge and research activities, which places a weighty burden on the role of Thai universities in the area of regional development. In Japan, on the other hand, regional authorities are capable of setting up own policy, research institutes, even universities of their own. For example, Hiroshima University's new main campus was developed harmonized with the city's development plan. Yamagata Prefecture and Yamagata University has jointly launched "organic electronics valley plan" and set up a research institute. There are several other examples of collaboration with local authorities and universities. Degree of the development of networks for sharing the information also differs between Japan and Thailand. There is the longer history of regional industry development in Japan, and there are successes of regional network of industry, government and academia (e.g. Iwate Network System). It was pointed out that such network is still weak in Thailand, resulting in a dearth of shared experience and information. While, advantage of Thai universities were also pointed out that regional universities are closer to the communities, indicating great potential of Thai universities' contribution to the region.

Demand for the person who can share both science and business/project management was found to be common in both countries. Some universities (e.g. Tokyo University of Agriculture and Technology, Mie University) have started (or going to start) graduate programs for fostering such personnel. It was pointed out that the regional needs and common interest should be identified in the field by joint work research team. It is also important to involve younger generation (e.g. students, post doctoral fellows) for sustainability and improvement of the collaboration.

Benefits of international collaboration for community/regional development were reaffirmed in this forum. There are high degree of similarity in experiences, interests and

issues in both countries, while several differences were also found. These indicate great potential that the different knowledge and skills supplement each other. In the end of the third session following recommendations and suggestions for the next step were given.

The forum provided very good opportunity that many local/regional universities meet each other. It is highly recoded to hold next meeting and set up liaison for the regional universities for continuously support their exchange.

In the next forum of community/regional contribution, representatives not only from universities but also from private sector and industry (e.g. JCC) and other relevant agencies/organization (e.g. JICA, JETRO etc), and local government/authority should be invited.

It is recommended to set several technical sessions, such as regional innovation, medical/health support, functional foods etc.

It is recommended to hold next meeting in regional city and see the practical examples for deepening the discussion.

2nd JSPS International Forum: Role of Universities in Community/Regional Development

Session 1: Regional Innovation: University-Industry Collaboration

Key note lecture: “University Roles in Regional Innovation” by Prof. Masayuki Kondo (Yokohama National University)

Key note lecture: “University-Industry Linkages in Thailand: Successes, Failures and Lessons Learned for other Developing Countries” by Dr. Patarapong Intarakumnerd (Thammasat University)

Panel session:

Mr. Wichien Cherdchutrakuntong (Federation of Thai Industry, Chiang Mai Chapter)

Dr. Daorong Kangwanpong (Chiang Mai University)

Mr. Michio Obara (Japan Science and Technology Agency)

Dr. Somchai Chatratana (National Science and Technology Development Agency,

Thailand)

Session 2: Supporting Community and Region

Key note lecture: “How to Provide Good Care for Dementia Patients and Their Families. Build a Network Between Doctors, Nurses and Caregivers” by Dr. Siwaporn Chankrachang (Faculty of Medicine, Chiang Mai University)

Key note lecture: “Usability of Internet Technology to Support the Regional/Community Development” by Prof. Masaaki Tokuda (Faculty of Medicine, Kagawa University)

Panel session:

Dr. Pradya Somboon (Department of Parasitology, Chiang Mai University)

Dr. Prapan Jutavijittum (Department of Pathology, Chiang Mai University)

Prof. Yuko Takeda (Graduate School of Medicine, Mie University)

Mr. Tokuro Ambe (Vice- Consul, Consulate-General of Japan in Chiangmai)

Mr. Shinichiro Shinozuka (Chiangmai Long Stay Life Club)

Session 3: Regional development, Sustainable Tourism and Wise Use of Local Resources

Key note lecture: “Regional Development Through Tourism Activities and Role of Universities” by Prof. Tsunekazu Toda (Community Cooperation Center/Graduate School of Social Sciences, Hiroshima University)

Key note lecture: “Sustainability, Regional Development, Tourism, Local Resources: What role of Universities?” by Prof. Charit Tingsabadh (Centre for European Studies, Chulalongkorn University)

Panel session:

Prof. Li-Chun Chen (Faculty of Economics, Yamaguchi University)

Prof. Manat Suwan (Faculty of Social Sciences, Chiang Mai University)

Session 4: General Discussion: Toward Networking

Presentation from session chairs

General discussion: “Towards Networking of Community/Regional Development”

Site visit:

1) The Research Institute of Health and Sciences, Chiang Mai University

2) Murata Electric Co. Ltd. (in Northern-Regional Industry Estate)

The 2nd JSPS International Forum: Roles of Universities in Community/Regional Development was held at Amari Rincome, Chiang Mai on 16 - 18 November 2009. Representatives of Japanese and Thai universities and agencies shared expertise and examples of good practices with regard to the community and regional-outreach programs of their respective institutions of higher education and research.

The objective of the 2nd forum was to review the role of universities in community/regional development in Japan and Thailand, and seek the future collaboration for playing their role in respective regions. Focus areas were given from the outcome the 1st forum: 1) Regional Innovation: University Industry Collaboration, 2) Supporting Community and Region for health care and medical services, 3) Sustainable tourism and wise use of local resources.

In the first session, two key note lectures were given to provide overview of regional development programs. Prof. Masayuki Kondo presented the history of regional innovation in Japan, and recent trends, such as inter-regional innovation collaboration, multiple policy coordination (e.g. METI and MAFF collaborate program), and international collaboration for regional innovation. He also referred differences of players in regional innovation in Thai and Japan, and pointed out that universities are important in regional development, especially in Thailand, because there are no Thai local government institutions, although local government institutions have played important roles in Japan. Dr. Patarapong Intarakumnerd introduced the findings from a study on University-Industry links (UILs) in Thailand, its position, history and reason for the recent state of UILs. It was pointed that universities have been more important in traditional industry firms, such as textiles, food, and printing, rather than in high-tech industry. Mode of universities' services has been consulting and technical services, rather than interactive forms such as joint research, with only a few exceptional cases, such as HDD. There are challenges to learn from the successful case and make it general rule. In the following panel discussion, Japan Science Technology Agency (JST)'s programs in line with the 3rd Science and Technology Basic Plan of Japan, was introduced with several successful examples by deploying innovation plazas/satellites and coordinators who mediate academia and business sector.

From Thailand a unique and excellent example in which creation of networking for

innovation initiated by private sectors, i.e. Federation of Thai Industry Chiang Mai Chapter was presented. Their activities have taken a log step from promoting the idea of innovation, establishing service center to proposing the provincial level strategy for innovation. They aim more collaboration with education sector and to expand their network for national level. Another successful case, particularly in improvements of production process in agro/food industry is led by NSTDA (iTAP program). It was pointed out that in some technology is good for licensing, while other may not suit for licensing, instead, suitable for local authority to improve the value of raw material/fresh products, and such analysis is important to identify the matching of technology, which leads to market readiness, and successful innovation. Chiang Mai University introduced their efforts to lead development of regional industry/firms. It is pointed that such regional innovation is important for university itself for not losing qualified graduate from the region.

In the second session several efforts for supporting community in medical and health care were introduced. Several programs have been working to create medical and health care systems which have links between hospital and community base care systems. Dr. Siwaporn Chankrachang introduced the program for building a network between doctors, nurses and caregivers for dementia patients. Prof. Masaaki Tokuda introduced application of internet based medical network systems which provide effective patient care and health support for the people in remote place. These systems can be also applied to international networks for support patient in oversea countries (e.g. Japanese stayers in Chiang Mai, Tropical disease patient in Japan) by sharing information among doctors and patient. Community-based medical education, presented by Prof. Yuko Takeda, is another example to create strong linkage between doctors/universities and communities. This concept has been applied in conjunction with the concept of sustainable development, and it has been successful to improve the awareness of community for their health care and educate students in medicine to equip necessary competence for community health care professionals. Two presentations introducing international collaboration for infectious disease research and malaria prevention program highlighted international collaboration is effective and important for tackling infectious disease, otherwise an outbreak in one country may spread to the others. Networking between Great Mekong Subregion (GMS) countries together with Japan was proposed for effective education, research and services for health and medical care in the region.

In the third session sustainable tourism development on wise use of local resources was focused. Recent development and trends of Japanese and Thai tourism, by Prof. Tsunekazu Toda and Prof. Charit Tingsabadh respectively, were introduced. Issues for sustainable tourism (e.g. local resource exploitation, unique culture diversity preservation, poverty reduction and distribution of benefit, etc) were discussed. It is pointed that tourism depends on public goods, such as environment, culture, nature diversity, which are not dealt with as goods in markets. The concept of Sustainable Tourism and community-based tourism, as an approach to achieve it, was introduced as tools to prevent the destruction of public goods, and develop the tourism beneficial for regions/communities. Lectures and talks in the session emphasized importance and possibility of universities' contribution to the community, especially on human resource development, culture preservation, research and analysis of situation, and development of policy/planning.

In the last general discussion, session chairs highlighted key points and findings from each session. Then all participants discussed through three sessions' topics to extract common issues and key findings in university-regional collaboration. In successful cases "coordinator" played essential role to identify matching needs and seeds, and to establish mutual trust between partners. For example, culture/behavior of university and company is quite different and often coordinator him/herself also has to lean different ways of thinking of peoples from different sectors. Another point identified from the discussion was that regional development should not consider just collaboration in the region, but like with outsider. This can be seen in potential benefit of linkage to international market and advanced knowledge. The concept of Sustainable Development was also reaffirmed its importance in several aspects in working for regional development. It is necessary to balance the current and future needs, and so, preserve environment together with tradition and culture, which are also properties for the future development. There are several issues to be overcome for stimulating collaboration between universities and other regional sectors. However, it is clear that universities fully equip with knowledge and skills necessary for sustainable development of the region. Continuous efforts for sharing our experience and knowledge through workshop/meetings and international collaborations are strongly recommended.

1月

- 1月8日～10日 第2回 ANDA 国際会議挨拶・出席（副センター長）
- 1月13日 第3回 JSPS タイ同窓会準備委員会開催（センター長・副センター長）
- 1月20日 大阪大学主催「タイの高等教育に関するセミナー」出席
（センター長・副センター長）
- 1月21日 日本大使館主催新年会出席（センター長・副センター長）
- 1月25日 東北大学多元物質科学研究所金原教授、和田教授来訪（センター長・副センター長）

2月

- 2月4日 小野理事長、星野地域交流課長、山岡人物交流課主任心得、小野係員打合せ
（センター長・副センター長）
- 2月5日 論博メダル授与式、第1回 JSPS タイ国同窓会総会、バンコクセンター20周年記念講演及びレセプション開催（センター長・副センター長）
- 2月6日 京都大学東南アジアフォーラム出席（センター長・副センター長）
- 2月7日 京都大学東南アジア研究所バンコク事務所打合せ（センター長）
- 2月11日 ユネスコインドネシア 中田専門員、森専門員来訪
（センター長・副センター長）
- 2月12日～16日 香川大学インターナショナルオフィス インターナショナルウィーク講演
（センター長・副センター長）
- 2月17日 お茶の水女子大学 高橋講師、国際交流チーム井神係員来訪
（センター長・副センター長）
- 2月18日 日本学生支援機構 丸山人事課課長補佐、大八木留学生事業計画課長補佐、萩原主査来訪（センター長・副センター長）
- 2月22日 第4回ワークショップ「Improvement of solid waste management and reduction of GHG emission in Asia」出席（センター長）
- 2月23日～24日 SEASTER（ウミガメ及びバイオログング研究）シンポジウム出席
（センター長）

3月

- 3月2日 大学評価・学位授与機構主催 2010 インフォメーション・パッケージ出席
（センター長・副センター長）

- 3月3日 埼玉大学研究協力部国際交流支援室高尾敏史室長、総務部総務課川上係員、学務部全学教育課望月係員、学務部学生支援課真田係員来訪
日本学生支援機構財務部主計課 塚田課長補佐、主計課 福本総務係長来訪
JSPS ロンドン研究連絡センター古川センター長打合せ・送迎
(センター長・副センター長)
- 3月4日 京都大学東南アジア研究所 清水教授、京都大学地域研究統合情報センター 星川助教来訪 (センター長・副センター長)
タイ国 JSPS 同窓会 ブッサバー会長と打合せ (センター長・副センター長)
- 3月5日 大阪府立大学 黄瀬教授、大阪府立大学 杉村教授来訪
奈良先端科学技術大学院大学 松本教授、大平助教、カセサート大学 Pattara Leelaprute 研究員来訪 (センター長・副センター長)
石井米雄先生追悼式
- 3月9日 大阪市立大学・チュラロンコーン大学共催 第8回 ACADEMIC FORUM
「Empowering Urban Culture and Creativity」出席
(センター長・副センター長)
- 3月10日 千葉大学・マヒドン大学 国際交流センター設置調印式 挨拶
(センター長)
大阪市立大学・チュチュラロンコーン共催 第8回 ACADEMIC FORUM
「Empowering Urban Culture and Creativity」出席
(副センター長)
- 3月16日 名古屋工業大学・名古屋工業大学国際交流センター長山本幸司来訪 (センター長・副センター長)
- 3月18日 NRCT と事務打合せ (センター長・副センター長)
- 3月19日 第7回科学技術連絡会出席 (在タイ日本大使館) (センター長)
大阪大学 GLOCOL Bangkok セミナー出席 (副センター長)
- 3月23日 タイ国 JSPS 同窓会幹部との打合せ (センター長・副センター長)
- 3月27日 池島センター長帰任

日本学術振興会バンコク研究連絡センター / JSPS Bangkok Office

113 TWY Office Center、10th Fl. Serm-mit Tower

159 Sukumvit Soi 21、Bangkok 10110

Tel: +66-2-661-6453 Fax: +66-2-661-64